平成 31 年 1 月 25 日

研修報告書

氏名：藤田　直久

所属：信州大学医学部附属病院 遺伝子医療研究センター

研修期間：平成　31　年　1　月　15　日　～　平成　31　年　1　月　25　日

研修場所：東京女子医科大学　遺伝子医療センター

研修内容：



研修成果：

１）遺伝カウンセリング陪席

長野県内では行われていないNIPTに関する遺伝カウンセリングに多数陪席できたのが特に勉強になった。単純に検査の意義や内容、結果確率を情報提供するに留まらず、クライアントが不安に思っているところを明確にし、それに応じた対応や選択肢を提示するなど、患者に寄り添った遺伝カウンセリングが印象的だった。また、臨床遺伝専門医と臨床遺伝カウンセラーが対等な関係で互いにサポートし合う体制がしっかり作られていると感じた。

２）遺伝カウンセリング実践

研修2週目、松尾先生とともにデュシェンヌ型筋ジストロフィーの家族歴に関する遺伝カウンセリングを行う機会を頂いた。頭の中やロールプレイではできていたはずの説明が、実際に不安を抱えて来談されているクライアント相手では思うようにスムーズにできず、自分の知識の整理不足および一般の方に分かりやすく伝えることの難しさを痛感した。

３）脊髄性筋萎縮症の診療

短い期間にも関わらず、施設として力を入れて行われている脊髄性筋萎縮症（SMA）の診療の様々な場面を見せて頂いたのは東京女子医科大学での研修ならではで非常に良かった。SMA1型疑いの乳児の初診外来の場面に立ち会う貴重な機会を得た他、治験で乳児期からのヌシネルセン定期投与を継続している1型の幼児や、新規治療の開発・保険診療を待ち望みながら外来に定期通院されている2型の患者さんたちを診察できたのはとても大きな経験になったと感じている。さらに最新の遺伝子治療・治験に関して講師からのレクチャーを受け、実際その診療風景にも立ち会い、遺伝性疾患に対する治療の急激な進歩を目の当たりにした。今後の治療のさらなる発展に期待を抱くと同時に、遺伝性疾患診療の重要性を改めて実感した。

その他（感想・要望・反省点、等）：

気さくで親切な先生ばかりで、安心して研修することができました。スタッフ間の風通しも良く、職場の雰囲気もとても良かったです。また上にも書きましたが、まさに最先端を走りどんどん進歩しているSMA診療の今に立ち会えたことは、非常に良い経験になりました。

研修の受け入れと急な延長願いを快く承諾して下さいました齋藤先生・山本先生、熱心にご指導下さいました松尾先生を始め、遺伝子医療センターの常勤/非常勤の先生方や臨床遺伝カウンセラーの皆さん、そして事務の常光さんには大変お世話になりました。本当にありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。